

微生物プラチナアトラス

佐々木雅一(著), 岡 秀昭(編著)

亀田総合病院臨床検査部部長

大塚喜人

微生物検査・感染症診療の バイブルとして、 そばに置いておきたい1冊

本書の著者である佐々木雅一先生との出会いは15年ほど前のことでした。当時、美唄労災病院(現;北海道せき損センター)に勤務していた佐々木先生は、評者が旭川、札幌へセミナー等の講演に訪れる度に熱心に聴講してくれていたことをよく憶えています。少々日本人離れした彼の鼻の高さと、下がった目尻は印象的で、一度会ったら忘れはしない男前です。

あるセミナーの閉会后、聴講者との懇親の場において、佐々木先生は評者にたくさんの質問をぶつけてきました。詳細は既に記憶から消えてしまいましたが、臨床微生物検査に従事する臨床微生物検査技師として、極めて重要な考え方を持つ先生だなと強く印象に残りました。以来、事ある毎に佐々木先生に注目してきましたが、人事異動によって神奈川県にきたかと思うと、そこを退職され東京都内の現職に転職し、その存在感をも大きくしていきましました。そんな佐々木先生が趣味でもある写真の技術を活かして、感染症医の岡秀昭先生と共に、渾身の1冊「微生物プラチナアトラス」を作り上げました。

近年の微生物検査室は技術格差が生じています。従来から利用されてきた腸内細菌科細菌を同定するための確認培地を利用していたり、培地の色調変化で簡易同定を実施したり、その他の試験管法を活用していたりする施設もある中、同定技術の最先端である質量分析装置の登場によって、細菌や真菌の同定を正確且つ迅速に数分で検査を可能にしている施設もあります。すなわち、同定検査技術が発達するにつれて、検査のブラック

ボックス化も進んでいるため、本当に重要な検出菌集落の特徴である、形態、色、大きさ、集落そのものや集落辺縁の形状、臭気、粘稠性などといったことを見逃している傾向が伺えます。しかし、ブラックボックスであるがゆえに誤同定が起これないように、日々の精度管理はもちろん、自己の技術管理を行う上で、本書に丁寧に記載された内容が生きてくると考えます。

本書には日常の感染症診療における病原細菌のほとんどを網羅した菌種が掲載されているとともに、その細菌、真菌の特徴、生じうる代表的な感染症、培養同定の方法と技師の視点での注意点、薬剤感受性試験の注意点、選択すべき抗菌薬と感染症専門医からの注意点が要点をまとめて記載されており、極めて明解に活用できるように構成されています。また特筆すべきは、実に見事な各種培地の写真、そこに形成された細菌や真菌集落の接写写真であります。グラム染色についても同様で、根気よくここまで美しい写真を揃えたアトラスは評者の知る限りではほかにありません。臨床検査技師はもちろんのこと、医師、感染に関わる全ての医療従事者がバイブルとして持つに値するものであります。



●B5変/頁248/2018年
定価: 本体4,500円+税
[ISBN978-4-89592-910-3]
MEDSi 刊